

自立活動学習指導案  
(通級指導教室(言語障害)における指導)

指導者 広島市立〇〇小学校  
教諭 〇〇 〇〇

- 1 日時 令和元年7月〇日(〇)
- 2 場所 〇〇通級指導教室
- 3 児童 A小学校 第2学年 男児 自校通級(週1回1単位時間)
- 4 児童の実態と取組のまとめ

本児は、構音障害のある第2学年の児童である。本校で実施した1年生へのことばの検査で、構音の誤りが見つかった。保護者は、本児の構音の誤りに気付いており、自校の通級指導教室(言語障害)での指導を勧めると「今までも気になっていたけど、何をしてあげたらよいか分からなかったので有り難いです。お願いします。」との返答であった。そこで、第1学年9月より当教室での指導を開始している。[su]の指導から開始し、/s/に波及効果([su]を指導し改善してきた。このことによって、まだ指導をしていない音が影響され、自然に改善してくる現象)が見られ、今年度4月に実施した構音検査では、課題が見られなくなっている。現在のところは、/s/について、音読・会話時において、若干の歪みが見られる。また、/d/と/r/の混同が見られ、表記にも誤りが見られるという状況である。

構音指導については、/s/について短文レベルでの指導と、/d/と/r/の弁別練習を行っている。/s/について、担当者の提示音の弁別(短文レベル)は正しくできるものの、自身の課題音の誤りに対する気付きは弱いため、担当者の評価によって構音練習を進めている。その際、言い直しを促すと、2度目は正しく構音できることが多い段階である。/d/と/r/の混同については、単音レベルでの[da]と[ra]の弁別練習から開始している。[da](破裂音、舌を上歯茎裏に付けて出す音)と[ra](弾音、巻き舌にして出す音)の舌の動きをしっかりと見せながら、視覚的・聴覚的に2つの音が違うことを示して弁別練習を行ってきたところ、口元を見せた状態で正しく弁別できるようになってきた。現在、口元を隠した状態でも、聴覚だけで正しく弁別できることが増えてきた段階である。練習の際には、写真や絵カード、ポイントになる言葉などを用いて、視覚化、言語化することを心がけている。

その他、本児は興味が移りやすく、集中が持続しにくい面が見られるため、繰り返し何度も練習する構音指導の際には、本児の注意力が途切れないよう、ゲーム的な活動を取り入れたり本児の好きな教材・教具を活用したりして、注意力を高められるようにしている。活動の説明を聞く際などに、話したいことや質問が思い浮かぶと相手の話の途中でも話し始める様子が見られる。そこで、説明を聞く際には、事前に、質問や発言の時間は説明の終わりに設けることを伝え、最後まで話を聞くことを意識できるようにしている。

保護者とは、電話連絡や懇談などを通して情報交換を行っている。保護者は、本児の構音の誤りについて、自分の構音が誤っていることが原因ではないかと話すことがあった。そこで、本児の構音の誤りは、弁別力がまだ十分に育っていないことや正しい構音要領が未獲得であるためであり、練習していく

ことで正しく聞き分けたり構音できるようになったりしていくことを伝えた。また、保護者が正しい構音であるため、正しい構音で話しかけることが本児にとってよいモデルになることを伝えると、安心する様子が見られた。今後も、保護者の思いや心配に思っていることなどをしっかりと聞いて受け止めながら、正しい知識や本児の成長した点などを伝えることで保護者の安心感につなげていきたい。

## 6 指導方針

ことばの教室でのねらいは、ことばに課題のある児童を正しく理解することを基盤として、全体的に調和のとれた発達を促し、学校生活や社会生活への適応を図ることである。本児をとりまく言語環境を整えながら、本児のニーズに応じた以下のような指導を行い、話すことに対する自信を育てていきたい。

- (1) 発声・発語器官の運動機能を高める。
- (2) 課題音について、語音弁別力を高める。
- (3) 正しい構音要領の定着を図る。
- (4) 保護者との連携を図る。
- (5) 通常の学級担任との連携を図る。

## 7 指導計画（短期）

/s/→[da]・[ra]の順で指導を進めていく。

指導目標	内 容
(1) 発声・発語器官の運動機能を高める。	<p>●発声・発語器官の運動機能を高める。</p> <p>① 口唇や舌の運動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・舌を平らにしたまま、10秒間保持する。</li> <li>・舌先をなめらかに、唇の上下左右に付ける。</li> <li>・舌先を挙上する。</li> <li>・舌先（舌尖）の力を高める。</li> </ul>
(2) 課題音について、語音弁別力を高める。	<p>●聞き分ける耳を育てる。（耳の訓練）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① よく聞く態度を育てる。</li> <li>② いろいろな音の中から目的語を聞き出す。（聞き出し）</li> <li>③ 目的音を繰り返し聞く。（刺激）</li> <li>④ 一対の音を聞いて、同じかどうか聞き分ける。（異同弁別）</li> <li>⑤ 目的音と誤音を聞き分ける。（正誤弁別）</li> <li>⑥ 自分の構音が正しいかどうか比較・照合する。（比較・照合）</li> </ol>
(3) 正しい構音要領の定着を図る。	<p>●正しい構音能力の向上を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 正しい音の出し方をつかむ。</li> <li>② 正しく言えるようになった音に慣れ、誤った音を忘れる。 （単音節→母音との組み合わせ→子音との組み合わせ→有意語の順で）</li> <li>③ 音読の中で、いつでも正しく構音できる。</li> <li>④ 日常会話の中で、いつでも正しく構音できる。</li> </ol>

(4) 保護者との連携を図る。	①懇談を通して、保護者の願いを受け止めたり、課題を整理したりする。 ②保護者会を開催する。
(5) 通常の学級担任との連携を図る。	①本児の日々の実態を情報交換する。 ②実態調査を実施し、通常の学級での実態を把握する。 ③授業公開、担任者会の開催を通して、情報交換を行う。 ④通常の学級の授業を参観し、実態把握に努める。

## 8 本時の目標

- ① 口唇や舌を随意的に動かすことができる。
- ② 単音レベルで[da]と[ra]の弁別ができる。
- ③ /s/について、短文レベルで正しく構音することができる。

## 9 学習活動の流れ

学習活動	目標	○支援・配慮事項 ☆評価	準備物
1 始めの挨拶をする。			
2 本時の学習内容を確認する。		○ 見通しをもって学習に取り組むことができるように、本時の学習内容を書いた「本時の予定表」を提示する。	・本時の予定表 (学習内容を箇条書きにしたもの)
3 「べろのたいそう」をする。 (口唇や舌を随意的に動かす練習) ・舌圧子を舌先で押す。 ・舌を脱力し、平らにしたまま 10 秒間保持する。 ・上歯茎裏に舌先を当てて 10 秒間保持する。 ・母音の練習。(あいうえお) ・食教材 (ソフトせんべい) を舌先でなめ取る。(上・下・右・左)		○ 見通しをもって取り組むことができるように、5つの体操を書いたカードを提示する。 ○ 意欲的に取り組むことができるように、裏返しにしたカードを本児が引きながら練習を進めていく。 ○ 学習内容を理解できるように、カードには活動内容と気を付けるポイントを写真入りで示し、ポイントを確認してから練習を始めるようにする。 ○ 活動の回数分かるように、活動前に回数を提示してから練習を始める。その際、本児が集中して取り組める回数を提示する。 ○ 食教材を使う前には手を洗い、練習後にはうがいをするように促す。 ○ 口や舌の状態を確認することができるように、鏡で確認しながら練習を行うよう促す。鏡を見て確認しているときには、「よく見て練習しているね。」などと言葉がけをする。 ○ カードに提示しているポイントを意識できているときには、カードの言葉を用いて、具体的に	・「べろの体操」のカード (5枚) ・鏡 ・舌圧子 ・ソフトせんべい ・ハンドソープ ・コップ

<p>4 「“だ”と“ら”をよく聞こう」をする。 (単音レベルでの[da]と[ra]の弁別練習)</p> <p>(1) 指導者の提示する音を聞き、「だ」と「ら」の書かれた箱にボールを入れる。(はじめの10回: 口元を見せて、残りの10回: 口元を隠して提示する)</p> <p>(2) 指導者の提示する音を聞き、「だ」と「ら」の文字カードを置いたケンステップにジャンプする。(20回: 口元を隠して提示する)</p>	<p>①</p>	<p>褒めるようにする。</p> <p>☆ ポイントを意識しながら、口唇や舌を随意的に動かすことができたか。</p> <p>○ 2つの音の違いが視覚的に分かるように、「だ」を青色の文字、「ら」を赤色の文字で示し、色を分けて提示する。</p> <p>○ 視覚的・聴覚的に2つの音が違うことが分かるように、指導者が構音する際の[da]と[ra]の舌の動きをしっかりと見るよう言葉がけをしてから、[da]と[ra]の音を提示する。</p> <p>○ 口元を見せた状態で[da]と[ra]の弁別練習を行い、2つの音の違いを確認したあと、口元を隠した状態で弁別練習を行う。</p> <p>○ 正誤を確認しながら進めるため、本児が正しいと思う方にボールを入れたり、ジャンプしたりして、本児の考えを確認できるようにする。</p> <p>○ 本児が答えた後、正解の「だ」と「ら」の文字カードを提示し、本児自身が答え合わせができるようにする。誤っている際には、よく聞くように伝え、もう一度音を提示して確認する。</p> <p>○ 集中が途切れないように、正しく聞き分けができていることを適宜褒めながら進めていく。</p> <p>○ 回数を重ねても意欲的に取り組めるように、弁別練習を行う際、身体を動かす活動を取り入れる。</p> <p>☆ 単音レベルで[da]と[ra]の弁別ができたか。</p>	<p>・ボール 20 個</p> <p>・「だ」と「ら」の文字を書いた箱</p> <p>・「だ」と「ら」の文字カード</p> <p>・ケンステップ</p> <p>・口元を隠す紙</p>
<p>5 「“さすせそ”のれんしゅう」をする。 (/s/について短文レベルでの構音練習)</p> <p>(1) くじびきゲーム。 担当者が提示したあと復唱する。</p> <p>(2) カードめくり。 めくったカードについて正しく構音する。</p>	<p>②</p>	<p>○ 初めに、正しい/s/と歪んだ/s/を提示し、正しい/s/の音について確認する。</p> <p>○ 比較・照合の力を高めるために、事前に、自身の構音の誤りに気付いた場合には、言い直すといことを伝える。練習中に、自分で誤りに気付いて言い直した際には、花丸を描いて賞賛する。</p> <p>○ 意欲を持続させて練習することができるように、ゲーム的要素を取り入れて行う。</p> <p>○ 正しい構音要領を意識できるように、短文カードの/s/に赤丸を付けておく。</p>	<p>・○×を書いた紙</p> <p>・/s/の短文カード</p> <p>・ゲーム(くじびき)</p> <p>・コップ 2 つ</p> <p>・カードめくりのやり方の紙</p> <p>・タイマー</p>

<p>6 振り返りをする。</p> <p>7 終わりの挨拶をする。</p>	<p>③</p>	<p>○ 音が歪んだときには、正しい/s/の音を確認して もう一度練習を行う。</p> <p>○ 後半の練習（カードめくり）では、担当者が 時々、意図的に誤音を提示することで、本児が指 摘できるようにする。誤りに気付いた際には、「よ く聞いていたね。」などと言葉がけをする。</p> <p>☆ /s/について、短文レベルで正しく構音するこ とができたか。</p> <p>○ 本時の中で良かったところ・頑張ったところを 賞賛し、次回の学習への意欲をもつことができ るようにする。</p>	<p>・本時の予定表</p>
---------------------------------------	----------	--	----------------